

放射線について学ぶ

～職員研修会を開催～



8月25日、市役所近江庁舎で、市の管理職職員や東日本大震災の災害派遣関係職員などを対象にした災害（放射線）研修を行いました。

今回の研修の目的は、放射線に関する正しい基礎知識やその対応方法などを習得すること、また各職域における防災対策を推進し、

地域防災計画の見直しや被災地復興支援のために役立てることにです。

今回の講師は、三菱樹脂株式会社 社山東工場の放射線取扱主任者の古賀錦弥さん。研修では、放射線の定義や種類、特徴などの基礎知識から、ウランやプルトニウム、プルサーマルといった原発の燃料の違い、内部被ばくに至るまでの経路や人体への影響などについて学びました。

特にヨウ素やセシウムなどの放射性物質については、天候による空間的広がりやチェルノブイリ原発事故後の空気中の放射線量の時間変化など、職員も認識を新たにしました。

そして、研修後半では、万が一近隣で事故が起こった際の緊急避難について話があり、放射能を浴びた際の除染方法や手当の方法、自身の被ばく量の計算方法など、より実践的な内容を学びました。

市では、今後も職員の専門知識の習得に努め、有事の際に市民のみなさんの安全を確保するための施策へ役立てていきます。



米原駅は自由通路、東西駅前広場ともに新しく生まれ変わりました。

自由通路では、来年3月末まで「水源の里まいばら OYAKO写真展」を開催しており、写真家ブルース・オズボーン氏に撮影いただいた市内の水源の里に暮らす元気の親子の写真と、オズボーン氏がこれまで新聞の企画特集として掲載されてきた有名人の親子の写真を展示しています。各方面から「かけがえのない親子の絆」やふるさとへの想いを育む企画として好評を得ているところです。

これにより自由通路にもにぎわいが出てきました。さらに西口の駅前にも大きな円形広場が誕生しました。広場の中央には銅像や噴水などが一般的ですが、イベントなどにも活用できるよう空間を有効に使える構造としています。

米原曳山祭の子ども歌舞伎の上演や地場産野菜の特産市など、市民の皆さんの提案によって、交流のまち“にふさわしい駅前としてにぎわうことを大いに期待しています。

(9月1日記)

米原市長 泉峰一